

公の施設の指定管理者における業務状況評価書

平成25年1月28日

施設名	高知県立文学館	所管課	文化・国際課
-----	---------	-----	--------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日									
施設所在地	高知市丸ノ内2-1-10											
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者の遺品等(以下「文学資料等」という。)を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。 ・文学資料等の調査研究 ・文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の教育普及活動 ・企画展示室、ホール及び茶室の提供 ・上記のほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な業務 											
施設内容	<p><建物>延べ床面積:2,748㎡ RC造地上2階建 <土地> 4,747㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、寺田寅彦記念室、ホール、茶室など <開館時間>午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 常設展 一般350円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料</p> <table border="0"> <tr> <td>施設利用料</td> <td>企画展示室</td> <td>22,640円(1日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ホール</td> <td>12,200円(全室/1日)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>茶室</td> <td>3,490円(全室/1日)</td> </tr> </table>			施設利用料	企画展示室	22,640円(1日)		ホール	12,200円(全室/1日)		茶室	3,490円(全室/1日)
施設利用料	企画展示室	22,640円(1日)										
	ホール	12,200円(全室/1日)										
	茶室	3,490円(全室/1日)										
職員体制	常勤職員: 5人	契約職員: 12人	合計: 17人									

※職員数は平成23年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成22年度(決算)	平成23年度(決算)	平成24年度(予算)
収入	県支出金	109,672	98,103	106,295
	事業収入	13,111	6,725	6,269
	その他	3,244	900	
	収入計(a)	126,027	105,728	112,564
支出	事業費	32,217	26,238	28,398
	管理運営費	91,439	79,076	84,166
	(うち人件費)	(62,009)	(54,450)	(57,821)
	その他	2,371	414	
	支出計(b)	126,027	105,728	112,564
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成22年度(実績)	平成23年度(実績)	前年度比
年間利用者数(単位:人)	39,768 人	32,629 人	- 7,139人
	<p><利用実績> 平成23年度は、高知ゆかりの作家や人々の心に訴える展覧会など6本の企画展を実施した。常設展示では、収蔵資料を中心に定期的な作家の入れ替えを行った。「入館者数」は、「常設展」932人(前年度比較+488人)、「企画展」19,004人(前年度比較+3,028人)で推移した。 なお、全体入館者の減少は、平成22年度の入館者数が2階企画展示室を土佐山内家宝物資料館に貸し出した際の入館者11,626人を含んでいるためである。</p>		

4 県の要求水準に対する評価

要求水準1	評価	状況説明
<p>本県ゆかりの文学作家を顕彰し、土佐文学の魅力を伝える</p>	<p>本県は全国的にも数多くの文学者・文学作家を輩出している。その顕彰とともに時代背景や人物像も含めて土佐文学の魅力を広く紹介する。</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <p>1 企画展示 企画展示は、研究者から高い評価をいただいた文豪と高知ゆかりの作家の組み合わせ「鎌倉文士と横山隆一」、「太宰治氏と田中英光氏」による展示や、全国レベルの人気のある作家や子どもたちが親子で楽しめる「星野富弘の花の詩画展」、「宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展」、「市原麟一郎氏の土佐民話展」(市原氏の直接解説の実施)など、質が高く大変興味深い企画展を開催した。</p> <p>2 常設展示の取り組み 常設展示室は、四季を感じさせるような工夫を凝らした展示を定期的に入れ替え、変化に富んだ常設展示を行った。また、顕彰作家の人物や作品を理解できるよう文学カレッジの講演を行うことや様々な取り組みを行っている。 企画室は、東日本大震災の後、寺田寅彦氏の先見性ある警鐘と業績が改めて注目されるとともに、宮尾登美子氏の展示では、寄贈新資料の紹介で好評を博した。 企画コーナーの田宮虎彦氏の生誕百年展は、土佐清水市でも広報され、「足摺岬」の舞台となったホテル(旧武政旅館/現足摺園)での出張朗読会の成功等に繋がった。</p> <p>3 展示に関連した取組み 「星野展」のコンサートは文学館として画期的な取り組みであった。土曜と日曜、祝日のギャラリートークの実施、写真撮影コーナー、企画展に併せた朗読会、文学散歩など文学への理解を深める取組み、展覧会終了後の県内他施設の巡回展の実施なども行った。</p> <p>4 専門性の対応、情報発信等 文学カレッジ、専門講座実施による展示内容の理解度の向上、外部専門家との交流拡大による学芸員のレベルアップ、社会教育の場での講師実施など専門性を持った対応を可能とする取り組みを進めた。 また、土佐文学の情報発信と文学館のアピールでは、ホームページの充実、季刊館報の発行、マスコミの活用、教育関係機関との連携、商店街など地域との連携による取り組みなどあらゆる手段を活用している。</p> <p>5 資料の適切な保管について 限られた保管スペースのなか、日ごろの関係者との親交を背景として、新資料を寄贈いただいております。今後も作家や関係者との大切な信頼関係が損なわれないよう良好な関係を維持するとともに、研究者やその関係者との日ごろからの信頼関係の構築に取り組み、良好な状況を保っている。</p> <p>○企画展(年6回) ・「横山隆一と鎌倉文士と高知展」(4月16日～6月19日) ・「宮崎駿が選んだ50冊の直筆推薦文展」(7月2日～9月4日) ・「市原麟一郎・よみがえれ土佐民話展」(9月17日～11月13日) ・「太宰治と田中英光展」(11月26日～1月15日) ・「横田稔 絵本の世界展」(1月21日～2月22日) ・「星野富弘 花の詩画展」(3月1日～3月31日)</p> <p>○常設展 ・今村楽、中江兆民、幸徳秋水、田中貢太郎、馬場孤蝶、効クラ・テル、小山いと子、大原富枝、若尾瀾水など</p> <p>○企画コーナー: 田宮虎彦生誕百年展 ○特別室「寺田寅彦記念室」「宮尾文学の世界」</p>

要求水準2	評価	状況説明
<p>県民の文学への関心を高める</p>	<p style="text-align: center; font-size: 2em; font-weight: bold;">A</p> <p>次世代を担う子どもたちをはじめとして、多くの県民が文学作品や作家に触れ、文学の愉しさを知り豊かな心をもてるよう、様々な事業を通して取り組む。</p>	<p>文学館の発足以来の歩みから、展覧会の対象、それに伴う観覧者数の推移等を分析し様々な課題に対応することや、教育普及事業の充実、文学活動の活動支援など、中長期の将来も視野に置いた展望の分析を行いながら事業に取り組んだ。</p> <p>○質の高い展覧会 高知ゆかりの作家や作品等の顕彰を念頭に置いた展示や全国レベルで人気の高い作品や作家を高知の地で鑑賞できる展示を心がけた。</p> <p>○子ども達が親しめる環境整備 展示内容に変化をもたせて子ども達に関心を持ってもらう工夫を凝らしたり、夏休み企画など、子どもや家族が来館しやすい展覧会の開催に努めている。</p> <p>○広報等 様々な機会を捉えての広報戦略の充実強化や広報等の工夫をした。特に、「星野展」では、保健・医療・福祉・教育分野へのアプローチなどにより効果が上がった。</p> <p>○教育普及について 文学カレッジ、専門講座、出張おはなしキャラバン、小中朗読コンクール、朗読フェスティバルの開催、市民講座や児童クラブを中心とした外部要請による出前依頼への対応など、学校をはじめ、県民への文学活動の支援も充実している。</p>

5 効率的な運営、サービスの向上、施設・設備の管理

運営・サービス・管理		評価	状況説明
効率的な運営、サービスの向上、施設、設備の管理に関する評価	適正な管理運営の確保	B	<p>○適正な管理運営の確保 条例、基本協定等、法令を遵守し適正な指定管理業務を行っている。 危機管理では地震防災計画に基づいた体制を整え職員の危機管理意識を高めている。また、消防と連携した訓練の実施、展示資料の防犯対応などに取り組んでいる。 小修繕や経年劣化した設備更新、危険箇所の修繕など必要に応じて対応した。</p> <p>○利用者サービスの維持向上 全国的な組織が行う研修会への参加など、質の高い職員研修を実施するとともに、来館者からの意見の対応事例などを各職員で共有し、利用者サービスの向上に取り組んでいる。 また、来館者の統計データを分析し、さらに高いレベルのサービス提供に取り組んでいる。</p> <p>○利用実績 年間2万人以上の観覧者数を維持し、特に企画展では過去10年間の2倍以上の実績を残した。 県都高知市中心という地の利を生かし、更なる集客に期待する。</p> <p>○収支の状況 観覧料、ミュージアムショップ、ホールや自動販売機の収入増加に努め、節電や両面コピーなど経費節減に努めた。</p>
	利用者サービスの維持向上		
	利用実績		
	収支の状況		

	評価	状況説明
総合	A	<p>・要求水準の内容を十分把握するとともに、入館者の現状を分析しながら、入館者の増加に努めている。また、常に展示の工夫や興味ある企画に取り組むとともに、関連したギャラリートーク、展示作品の作者自らの解説など、新たなファンを開拓する努力が見られる。</p> <p>・資料の適正な保管による作家や関係者との信頼を築き取り組み、文学研究や専門性を発揮した取り組み、土佐文学の情報発信等についても充実した取り組みを行っている。</p> <p>・財源の確保や経費削減、法令等の遵守に関しても良好であり、総じて優れた指定管理業務を行っている。</p> <p>・トイレに花を飾るなど、おもてなしの気持ちが現れた運営が行われている。</p>

- 【評価の目安】
- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 - B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 - C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 - D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

この評価書は、外部の有識者等で構成する委員会を設置し、その意見をもとに評価を行ったものです。